

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース			
科目名	動物臨床検査学実習					必修・選択必修の別		必修		
実施期	1年	前期	-	時間	後期	-	時間	授業時間数合計 ※授業50分を1時間とする。	162	時間
	2年	前期	78	時間	後期	84	時間			
	3年	前期	-	時間	後期	-	時間			
担当講師	迎 一彦 村田 佳輝 竹鼻 一也 小山 佳容子									
	実務経験	有	現場の経験を活かしたリアルな実習授業を行っている。							
授業概要	診療現場に必要な検体検査や生体検査および処置に関する意義を理解し、基本的手技を身につける。前期は血液検査、心電図検査、レントゲン検査を中心とした検査の準備や正確な手技の習得、後期は麻酔に関する知識や手技、歯石除去法、エキゾチックアニマルの扱いなどを習得し、手順や要領を考慮した行動から、問題解決能力や看護実践能力を身につける。							授業形式	実習	
到達目標	・より実践的な動物看護における問題解決や看護実践ができるようになる・採血の準備、適切な検体の処理等ができるようになる・血液検査を含めた基本的な検体検査が行えるようになる・基本的な心電図測定やレントゲン撮影などの生体検査ができるようになる・麻酔下にある動物の基本的なバイタルの管理・口腔衛生処置ができるようになる									
教科書・教材・服装等	動物看護実習テキスト、実習着									
授業計画時間数	授業内容									
1～3	1年次復習（便検査・尿検査・身体検査・バイタルサイン）を行う									
4～6	1年次復習（皮膚検査各種・便検査・保定法）を行う									
7～9 13～15	心電図の手技を学ぶ / 採血の準備・ヘマトクリット管での検査を学び実践する									
10～12	【猫実習】猫の保定の復習を行う									
16～18	実際の採血の保定を実践する、ヘマトクリット管での検査の復習を行う									
19～21 28～30	血球計算機や血液生化学検査の使い方を学ぶ / 皮下注射の手技を学ぶ									
19～21	初採血、赤血球容積比・黄疸指数など									
22～24 28～30	血球計算機・血液生化学検査説明の使い方 / 皮下注射練習									
22～24	シリンジ・バイアル・アンプルの扱いの復習を行う									
25～27	フィラリア検査の手技を学び実践する									
31～33	【猫実習】猫の採血法について学ぶ									
34～36 40～42	胸部レントゲン撮影の手技を学ぶ / 血管確保の準備や方法を学び実践に備える									
37～39	生化学(肝臓について) について学ぶ									
43～45	生化学(血漿タンパク質について) について学ぶ、頸静脈採血の保定練習、皮下注射練習を行う									
46～48 52～54	腹部レントゲン撮影の手技を学ぶ / 薬局業務を実践する									
55～57 61～63	股関節レントゲン撮影の手技を学ぶ / 大型犬の保定ができるようになる									
58～60	生化学（血糖値、総コレステロール）について学ぶ、頸静脈採血の保定練習、皮下注射練習を行う									
64～66	生化学（電解質について）について学ぶ、皮下注射練習を行う									
67～69	前期で学んだ検査の復習を行う									
70～72	一般家庭犬を通して様々な犬の扱いに慣れる									
73～75	前期で学んだ検査の手技の確認を行う（実技テスト）									
76～78	【猫実習】猫のワクチン実習を行う前期復習を行う									
82～84	血液塗抹標本作成の練習する									
85～87 91～93	レントゲン保定の復習の行う / 血液抗凝固剤について学ぶ									
88～90	白血球の分類ができるようになる									

94～96	百分比の算出について学ぶ			
97～99 100～102	麻酔器の使用について学び、麻酔導入の準備ができるようになる／入院管理業務について学ぶ			
103～105	【猫実習】犬猫の血球の違いについて学ぶ			
106～108	百分比の算出ができるようになる			
109～111 115～117	歯石除去を行う／薬局業務を実践練習を行う			
112～114	赤血球・血小板の観察を行う			
118～120	【猫実習】ウイルス検査の検査手技を学ぶ			
121～123 127～129	超音波検査時の保定法を学ぶ／ニューメチレンブルー染色の検査意義と手技を学ぶ			
124～126	パルゴ検査の手技を学び実践する			
130～132	一般家庭犬を通して様々な犬の扱いに慣れる			
133～135 139～141	歯石除去を行う／手術に使用するリネン類の扱いを学ぶ			
136～138	【猫実習】救命救急処置について学ぶ			
142～144	血液塗抹標本作成の復習を行う（実技テスト）			
145～147 148～150	外部企業実習に向けた心構えをまとめる／小動物の扱いや保定を習得する			
151～153 157～159	大型犬の保定ができるようになる／留置針設置や点滴の準備ができるようになる			
154～156	2年次で学んだ内容の確認を行う（試験）			
160～162	【猫実習】猫の保定の復習を行う（実技テスト）			
成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・実技試験		○	実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない
成績評価基準	A評価	出席率99～90％以上・実技試験A評価・平常点 優れている		
	B評価	出席率89～80％以上・実技試験B評価・平常点 普通		
	C評価	出席率80％以上・実技試験C評価・平常点やや劣る		
	F評価	出席率80％以下・実技試験C評価・平常点 劣る		